

水稲・麦管理のポイント

水稲・・・本格的に稲作の作業が始まります。

麦・・・登熟初期の湿害は根の活力が低下します。排水対策に努めてください。

水稲

●補植作業

補植は最小限に抑えます。欠株に対する補植は、連続して5株以上欠株がある場合のみ2～3株植えます。
※補植終了後の余剰苗は、いもち病の発生源になるため、速やかに処分します。
(苗は根を上にして畦畔などに置いて枯らします。)

●水田除草剤の散布

水田除草剤の効果を最大に発揮させるためには、水管理が重要なポイントとなります。水田除草剤は水に溶けて拡散します。水田の表面に除草剤の処理層を形成し、雑草が生育し処理層に触れることで除草します。このため、補植などの水田に入る作業を全て終えてから水田除草剤を使用し、使用後は水田に入らないようにしてください。また、除草剤散布後から7日間は水田の水位を3cm～5cmに保ち、除草効果を高めるためにも水が流れないよう漏水防止対策を講じることが大切です。

※ 農薬は必ず使用時期・使用方法などを確認してから散布を行うよう説明してください。

※ 環境こだわり米を栽培しているほ場では、農薬の成分数が7成分以下になるよう散布します。(参考資料として、令和4年産米水稲施肥設計書資材申込書に防除体系例が掲載されています。)

※ モゲトン等の県農作物病害虫雑草防除基準に載っていない除草剤は、成分数が少なくても環境こだわり米には使用できません。

※ ワキ・表土剥離・藻類対策、秋落ち対策として『田んぼの鉄人』を今年度より採用しています。施用すると多くの藻は翌日に褐変しバラけますが、アミミドロだけは注意が必要です。処理が遅いとマット状に残ってしまうため早期処理が大切です。(環境こだわり栽培のほ場でも使用できます。)

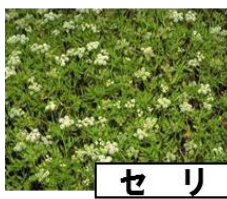
※ 同じ薬剤を数年続けて使用すると雑草が薬剤への抵抗性を持ってしまうため、3年に1度は除草剤の種類を変更し、抵抗性が出ないようにしましょう。

※ 本田除草剤については『令和5年産米水稲施肥設計書資材申込書』を参考にしてください。

【主な水田雑草】



マツバイ



セリ



ノビエ



ヒルムシロ



アゼナ



コナギ



クログワイ



オモダカ



ホタルイ



クサネム

●中期剤の本田除草剤

剤 型	1キロ粒剤	適用雑草名	3キロ粒剤	適用雑草名
商品名	ザーベックスDX 1キロ粒剤  湛水散布	水田一年生雑草	ザーベックスSM 粒剤(3キロ)  湛水散布	水田一年生雑草
		マツバイ		マツバイ
		ホタルイ		ホタルイ
		ウリカワ		ウリカワ
		ミズガヤツリ		ミズハヤツリ
		クログワイ		オモダカ
		ヒルムシロ		クログワイ
		アオミドロ 藻類による表層はく離		
容 量	1kg		3kg	
使用量	1kg/10a		3kg/10a	
使用時期	移植後20～30日まで		移植後20～30日まで	
ノビエ葉期	ノビエ3.5葉期まで		ノビエ2.5葉期まで	
成分数	4成分		3成分	

【中・後期剤】

商品名	特徴	成分数
セカンドショット S ジャンボ MX	一年生雑草や多年生雑草など幅広く効果が期待できる	3
クリンチャーバス ME 液剤	ノビエと広葉雑草に効果が期待できる。	2
バイスコープ 1キロ粒剤	広葉雑草に対し高い枯殺効果が期待できる。	2
サンパンチ 1キロ粒剤	幅広い雑草に効果があり、特にクログワイに高い効果が期待できる	4
アトトリ 1キロ粒剤	1成分でノビエ・オモダカ・クログワイに高い効果が期待できる	1
バサグラン液剤	イネ科以外の一年生雑草、多年生雑草に高い効果が期待できる。	1
バサグラン粒剤		1
クリンチャー 1キロ粒剤	ノビエに対し高い効果が期待できる。	1

○小麦生育状況

本年度の小麦については、3月の気温がかなり高く経過したことで、全体的に生育は進んでおり、『ふくさやか』では平年と比べて1週間程度進んでいます。

また、赤カビ病防除についても各地域で4/16頃より始まっており、2回の防除が実施されます。

【県内では4/27日に赤カビ病に対する注意報が発表されました。当地域では2回防除の実施を実施していますが、今後の生育には十分注意が必要となってきます。】

また、今後の天候（気温）次第では登熟期～収穫期が左右されますので営農担当者が適期収穫に向けたほ場巡回を実施し収穫時期を判断いたします。

【昨年（令和4年度）カントリー稼働日：6月3日】

○排水対策

排水不良は、根の伸長を妨げ、登熟期にまで影響が及び、収量および品質低下を引き起こすので、排水対策をしっかりと実施し、溝に水がたまる場合には溝さらえを行うなど速やかに排水するよう、引き続き徹底した排水対策に心掛けましょう。

麦の収穫に備え下記の事項を生産者に説明してください。

- 適期収穫が行えるよう、生育状況を踏まえた収穫作業計画を立てる。
- 収穫後4時間以内に施設搬入ができるよう、稼働計画を立てる。
- 穀粒水分30%以下で刈り取るため、収穫前に水分測定を行う。
- 収穫時は、コンバインの回転数に注意し、損傷粒の発生を未然に防ぐ。